

## 田園の景観



## □ 奥貫家の長屋門

久下戸は寛延2年(1749)に村高1397石余、戸数177戸と川越周辺では比較的大きな村であった。村のほぼ中央に位置する奥貫家は地域のシンボルとなっている長屋門や塙をもつなど立派な屋敷構えを持ち、代々名主を勤めた家。5代目友山(1705~1787)は、寛保2年(1742)の大水の際に、私財を投じて村人を救ったことで知られ、また教育者としても村政に尽くした。